

# 金融機関への決算説明

今回のテーマは「取引している金融機関への決算説明」についてです。通常は決算申告が完了し、手元に決算書が届いた上で各金融機関に決算書の控えをお渡しするというのが、一般的かと思います。その際担当者にただ渡して終わりにしていることがほとんどではないでしょうか。今回は決算書を渡す際に是非とも行ってほしい決算説明についてご説明させていただきます。

## 【決算説明は現状を分かってもらえるチャンス】

決算説明は決算内容はもちろんですが、会社の内容（事業内容）等を各金融機関の担当者へ理解してもらう機会にすることが大事です。そもそも決算の説明とはその期の損益について話をすれば良いだろうと思われがちですが、決してそうではありません。黒字であったか赤字であったかは勿論大事ですが、例えば赤字であれば何故赤字になったのか、新たな期は黒字転換する為に何に取り組んでいくのかといったことを説明することが大事です。そうすることで、各金融機関に自社の事を理解してくださり、信頼を得ることができ、新たに資金調達をする際にも融資審査のプラス材料をイメージしてもらいやすくなります。

また、財務体質を良くするという事で貸借対照表（B/S）の説明も是非行っていただければと思います。設備投資の計画があれば、いついくら必要になるのか、売掛金や買掛金、在庫その他の科目についても大きく変動があれば、その原因を説明する必要があります。（売掛金・買掛金については変動の有無に関わらず説明をして下さい。）金融機関は決算書を受け取ったら決算内容を登録し、与信判断の基となる信用格付を行います。その際に金融機関にもよりますが過去3年の決算書の勘定科目内訳書を確認します。そこで例えば内訳書の売掛金の取引先別の残高に変化がなければ不良資産と認定し資産から除き、その結果実質債務超過として判断されることもあります。このことから、事前に内容をお伝えしておくということが非常に大事になってきます。

## 【場合によっては資金繰り表も】

資金繰り表の話は先月させていただきましたが、決算説明の際に活用するのも一つの方法です。会社存続の為に損益も重要ですが、もう一つの指標として資金繰りという話をさせていただきました。新たな期の予測の資金繰り表を作成することで、どの時期に資金が苦しくなるかを把握することができ、それを各金融機関にお知らせしておくことが大事です。そうすれば時期を見て金融機関から資金調達の提案があるはずですが、逆に資金が足りなくなったタイミングで金融機関に相談に行っても、希望するタイミングでの融資実行は難しく条件も不利なものになる可能性もあります。

## 【最後に】

決算説明は各金融機関から自社を深く理解してもらう為の重要なタイミングとなります。またプラスアルファで中期事業計画を立てることも非常に大事です。コロナ禍で目まぐるしく世の中が変化している中で、それに応じた設備や人材への投資、戦略が必要になってきています。金融機関は上記に述べた信用格付の際には事業の成長性・将来性はどうかといった定性評価も行います。この観点からも中期事業計画の作成も行い、それも決算説明の際に社長様自らがしっかりと説明することも重要です。

決算説明は赤字でも黒字でも金融機関に対してのアピールチャンスとして捉えていただければと思います。決算説明を行うことで金融機関からの信頼を得ることに繋がります。是非この機会に取り組んでもらえればと思います。